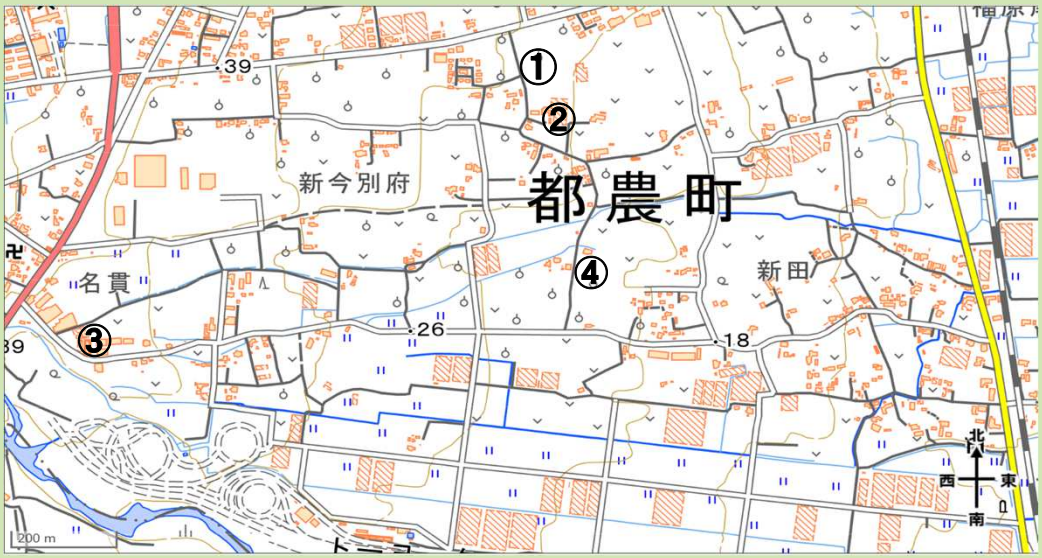
# 都農町資源マップ

13班




## 感想

実際に足を運んだからこそ見つけられたモノや感じられたことが多かった。また、都農町に住んでいるからこそ感じる魅力や地域資源、課題などインターネットでは得られないたくさんの情報を得ることができた。私たちは素敵な出会いがたくさんあったことから、都農町の魅力は人の温かさだと実感した。道中で声をかけてくださったり、昼食を食べる場所を準備してくださったりと、都農町の方々のやさしさに触れることができた。日常ではなかなか体験できない、非常に充実した実習となった。この経験を活かして、これからも地域についての学びを深めていきたいと考える。

## ①まるみ観光果樹園

この観光果樹園では、ブドウと梨を栽培しており、味覚狩りを楽しむことが出来る。梨は大正時代から、ブドウは昭和30年頃から生産を開始しており、歴史のある果樹園となっている。果樹園で作業をしていらっしゃった農家の方にお話を伺ったところ、都農町はなだらかな坂が多く水はけが良いため、以前はみかん造りの計画も立てられていたが、失敗に終わったとのことだった。現在は果樹園の後継者不足により畑が取り壊され、空き地が増えている、と現在の都農町の課題についても話をして頂いた。

## ③太陽農園

家族でぶどうと梨の栽培・直売を行っている農園。農園の百姓侍さんは養蜂やラズベリーの栽培も行っている。実習に訪れた５月中旬はぶどうが大きく育つよう「間引き」という作業をされていた。梨の栽培も行っているが、近年は暖冬の影響で育ちにくくなっているため、ぶどうの栽培や保全事業の一環であるコスモス畑でバランスをとっているとおっしゃっていた。コスモス畑の利点は、町の景観が良くなることと、食糧難になった際、すぐに大豆畑や芋畑に変えられることだと教えていただいた。

また、きれいな水や畑こそが都農町の資源であり、物体よりも文化や風習を受け継いでほしいとおっしゃっていた。農業は昔から変わらない自然を守ることにつながるため、私たち学生と農家の方々で知識と技術を融合し、農業を発展させていくことが大事だと教えていただいた。

「田舎の土地をそのまま残す、農家で自然を守る」という強い気持ちをもたれており、やりがいと誇りを持って農業をされていることが分かった。

## ③洋樽の有明産業

去年創業50周年を迎えた洋樽の有明産業。約2000本の樽があり、日本で唯一新樽の製造と修理・リメイクを行っている。今回お話をしてくださった方は、有明産業の副社長南園寿志様で、有明産業について詳しくお話を伺うことができた。現在の従業員は27名ほどで、かつては50代の方が多かったが、最近では児湯郡出身の若い方を中心に製造・リメイクが行われている。そのため、後継者問題は今のところないようだ。また、この工場では、1週間に約100本の樽を製造しており、栗や桜、ミズナラなど使用する木材も様々で、国内のものを使うことで日本の独特な木の香りや色を楽しむことができる。一番人気は栗の木を使った樽だそう。近年では、国内に限らず海外への輸出にも力を入れており、日本の樽を使い熟成させることで付加価値をつけることができると教えていただいた。都農ワイナリー方へも毎年20本程度販売しており、地元産業の発展に大きく貢献していることが分かった。さらに、有明産業は、津波の避難場所に指定されており、敷地が広いため大人数が避難できると感じた。最後に、都農町の魅力を伺うと、地元ならではの優しく時に厳しい意見をいただくこともあり、「人として成長できるところ」だとおっしゃっていた。

## ④ルミノ・ゾエン

旦那さんと都農出身の奥さんの夫婦二人で経営している、月に１回のカフェ。カフェの前には畑が広がっており、お二人とも兼業農家として様々な作物を育てている。収穫した野菜はカフェで提供するスイーツになったり、宮崎市や川南町に出荷したりしている。４年前に東京から移住し、４０代後半からカフェの経営を始めたというお二人は、若い頃は積極的に外の世界に飛び出して知識を付けたり、たくさんの失敗を経験することが大切だとおっしゃっていた。

また、移住してきたからこそ都農町の魅力や課題がわかると知った。都農町については、魅力は自然豊かなことで、もっとそれを生かすべきであることや、課題の一つである人口減少は本当に地域に根付く人が少ないからだということや、行政のお金使い方をデジタルの方面ではなくもっと農業に割いてほしいとおっしゃられていた。

## 石碑

農園の広がるエリアでは、いくつもの石碑が見られた。排水工事や道路の拡張、土地の基盤整備改良工事が完了したことを記念するものであり、竣立記念碑として建てられていた。都農町はこれまでも農業の発展のため様々な工事が行われており、都農町の農業の支えとなっていることが分かった。

## 移動販売

３・4年前から行われており、週に一回、20～25軒ほどを回り、日用品や食料品を販売している。足腰が弱くなり、なかなか買い物に行けなくなった高齢者の方などが利用しており、利用者の方は自分の好みに合わせて買い物をすることができて助かっている、負担が少なくなり便利だとおっしゃっていた。

また、農家の方もお昼ご飯を買うために利用しているとわかった。

住民のニーズに合わせた重宝されているサービスだと感じた。

## 課題・問題

地域の方々にお話を聞いたり実際に訪れる事で、都農町の課題を見つけることが出来た。一つ目は、後継者不足による畑や果樹園の取り壊しが増えてきている事だ。維持が難しくなった土地は取り壊されて空き地となったりソーラーパネルの設置場所となってしまう。また、暴風林の整備がされないなど暮らしを守る機能も減りつつある。二つ目は、温暖化により梨が育てられないという問題だ。農家の方によると今はそれほど深刻ではないが、将来どうなるかわからないと話していた。